



令和6年4月30日 横浜市立緑小学校

# 緑小だより 5月号

ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail: y3midori@educityyokohamajp

URL: <http://www.educityyokohamajp/school/es/midori>



## はてながいっぱい

校長 寺澤 みゆき

「校長先生はひとりなのに、どうしてこんなにたくさん椅子があるの？」

校長室を訪れた1年生の言葉です。どう答えようか迷いましたが、「なぜだと思う？」と聞き返してみました。3人の1年生はそれぞれに首を傾げ、しばらく考えていました。

「分かった！パーティをするんでしょ！」それを受けて、もうひとりが「ご飯を買ってきて、ここでみんなで食べるんだと思う！」と嬉しそうに話してくれました。

「パーティってやったことがあるの？」「うん、お家でやったよ。」「椅子が8個ある！」「そう？もっとあるよ、数えてみて。」「1, 2, 3・・・9個だ！」（本当は10脚でした）

教室に帰らなくてはいけない、と名残惜しそうに戻っていった1年生。戻って、先生や友達にどんな報告をしたのでしょうか。

鴨居中ブロック（緑小学校、竹山小学校、鴨居中学校の3校）では、「問題発見・解決能力」を教育課程全体で育成を目指す資質・能力と定め、重点的に指導しています。

本校ではそれを受け、テーマを『「みつけて かんがえて なるほど わかった」の育成を目指す教育課程の編成』～自ら問題を発見し、主体的に解決を探り、達成感が得られた児童の姿を目指して～とし、共同研究に取り組んでいます。

1年生が校長室を訪れ、「校長先生はひとりなのに、どうしてたくさん椅子があるのだろうか？」と思ったこの時、子どもの中には「はてな？（課題）」が湧きおこり、「聞いてみよう・調べてみよう（課題を解決しよう）」という意欲から活動が始まります。

「会議をするんだよ。」と言ってしまえば簡単です。しかし、それではせっかく湧きおこった子どもの「はてな？」が、大人の力によって一瞬で消えてしまうように思いました。あえて答えを伝えず問いかけ、子どもなりの予想をたててもらったのですが、課題解決のための2度目の訪問がまだありません。予想のとおりパーティをやっているのかぜひ確認に来てほしいなど、待っているところです。

また別の日、1年生の教室を訪問すると、「今日、テレビで見たよ！」「校長先生も、テレビに出てたの見た！」と、興奮気味に何人かの子どもに声をかけられました。朝、「子ども読書の日」の校内テレビ放送を行った日でした。「生放送だから、自分が出ているのは見られないんだよ。」と、話しましたが、話してくれた子は不思議そうな顔をしていました。

その話を高学年の子にしたところ、「すごく分かる！1年生の頃って、家のテレビと学校のテレビが同じだと思ってたから、先生や上級生が出ているのを見ると、すごい！ってなってたんだよね。」と教えてくれました。なるほど、と腑に落ちました。この「はてな」も、放送が行われている現場を見たり、自分や友達が出演したりする活動を通して検証する学習につなげていけば、「問題発見・解決能力」を育成することができる、と思いました。

学校だけでなく、地域や家庭の中にも、「はてな」はたくさんあります。子どもがそれを見つけた時、子どもの課題解決能力をどう育成するかは、子どもの発した「はてな」の言葉に、私たち大人がどう答えるかにかかっていると思います。

家庭や地域の中でも、「はてな」を大切に、自分の見つけた問題を意欲的に解決していく子どもを応援していただけたら、と思います。

今月も、本校の教育活動へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。